
バカと不良と車椅子少女

西野二伸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと不良と車椅子少女

【Nコード】

N9905Y

【作者名】

西野二伸

【あらすじ】

文月学園の姉妹校である水無月学園。ここには文月学園と同様の召喚システムが導入されている。完全オリジナルストーリーでお送りするバカテスをお楽しみください。

ブローグ

一時間目、数学試験

これが難しいと噂の振り分け試験

確かに難しいが問題無い。この程度ならDクラス以上は取れるだろう。

俺は最初に自分の名前『五月女伸二』を答案用紙に書く。

得意な数学問題を次々と解いていく。

現代国語や古文が苦手な俺は理数系に的を絞ってこの日の為に勉強してきた。

今日は調子良い。

次々と数学の答えがパツと頭に浮かぶ。

俺はチラッと右横の風華に視線を向ける。

風華のペンは走っている。

風華ならいつもの成績でAクラスに悠々と入れるだろう。

試験監督の先生、今回は大和田先生が生徒の横を通り過ぎていった。

すると、風華の横に大和田先生が止まった。

「机の中の物を出しなさい」

「え？」

困惑した様子の風華を余所よそに大和田先生は無理矢理風華の車椅子を引き、机の中に手を突っ込む。

机の中から出て来た大和田先生の手には、一枚の紙が握り潰つぶされていた。

それを堂々と試験を受ける生徒の前で広げた。

「おやおや？ これは何かの方程式でないか？ これはどういう事だ、風華？」

風華は目を白黒させる。戸惑いではない、ただ驚いている。

「……知りません」

「何が知りませんだ！ こっちに来なさい」

風華は為なす統すべなく大和田先生に連れて行かれる。

「ちょっと待ってくださいよ、大和田先生」

俺は立ち上がり、大和田先生の前の道を阻はらむ。

「なんだね、君は？」

明らかにイラついた様子の大和田先生。

「それって、本当に風華の物ですか？」

大和田先生の手につ紙を指でさす。

「なんだね？ 僕を疑っているのか？」

「いえ、疑ってはいない」

「だったら黙って居ろ！！ 貴様もカンニングと見なすぞ！！」

険しい剣幕で俺に命令する大和田先生。

「やめろ、伸二。私は大丈夫だ。お前は自分の試験の心配しろ」

「風華、わかったよ」

俺は風華の言うまま数学のテストを受ける。

大和田先生と風華が居なくなつて数分後、別の試験監督が入つて来た。

「ありがとう、その、……五月女君」

「礼をさせられる程の事はしてないよ。ただ俺が暴れたかっただけだし」

「でも、その暴れてくれたおかげで、私の処女は護られたわ。あんな気持ち悪い不良のチポに犯されずに」

「お前少しは恥じらいを持てよ。女の子がチポとか言っちゃダメ」

「そうね。私は貴方から見れば女の子だもんね」

「誰がどう見ても女の子だろ。俺的には美少女って感じたな」

「その言葉、もしかして口説いてるの」

「なんで口や鼻から血を出して頬を腫らしている顔で口説くんだよ。パツと見、俺負け面だよな？」

「勝ったじゃない。奇跡的に十人相手に」

「十人じゃなくて八人だよ。しかも相手は丸腰で、俺は木の棒持ってたし」

「でも最後の三人は素手で倒したでしょ？」

「いや、木の棒が折れて三人にリンチされるとは恥ずかしいな」

「そこから巻き返したので帳消しよ」

「そうか？ ま、そういう事にすつか。あー痛ー」

「大丈夫？ 肩貸す？」

「女の子の肩を血で濡らす訳にはいかないから遠慮する」

「格好付けなくていいから。ほら」

「男は美しい女、詰まる所美女の前では格好付けたい生き物なの。それぐらい察してくれ」

「男って最低ね」

「それが男です。コーヒーのCMでもあつたら？ 男は女に弱くて、男はサイテーで、男はサイコ だって。楽しいよ？ 男」

「馬鹿ね。男って最低の馬鹿。レイプしようとする奴も、五月女君も。五月女君の馬鹿は違う意味でだけど」

「男ですみません」

第一話 クラス分け

春爛漫、なんて言葉が出るほどの絶景。

我が校、水無月学園へ続く200mの坂道には、数え切れないほどの桜の木が桜を咲かしている。

まさに狂い咲き。桜の花びらが地面を覆い尽くすほど散っているが、一向に桜の花が無くなる気配が無い。

俺は桜を踏みながら坂道を上る。一年間通っているが、相変わらず長い坂だ。この坂道に慣れる気がしない。

上っている途中でショートヘアの車椅子少女を発見した。

手馴れているというか力が有るといとか体力が有るのか少女は歩くスピードと変わらないスピードで進む。

そんな彼女に俺は声をかける。

「よ、風華。おはよう」

「うん、おはよう伸二。今日も良い天気ね」

崎本風華。俺のクラスメイトであり、友達であり、親友だ。

実は彼女、幼い頃に交通事故で膝から下を失って以来車椅子生活。

「そうだな、今日も快晴だ。ところで腕疲れたか？」

俺は極自然に風華に尋ねる。坂道を半分ほど上ってもう疲れた頃だろう

「大丈夫。毎日上っているから慣れているし」

風華は笑いながら答える。いや、本当に風華は可愛い。特に笑った時の顔が最高だ。

「そうか。無理はすんなよ」

そこから先は雑談三昧だ。

坂道を上るまで風華の隣でゲームの話や漫画の話だ。風華は運動ができないので、幼い頃からゲームや漫画を読んでいる。

俺と趣味趣向が合うのでよく雑談をする。

風華と知り合って、もう一年になる。

学食で相席になってから、目が合えば自然と雑談が始まる関係だ。

しかし先月に風華のお見舞いに行っただけ以来だから三週間振りの再開だ。

そんなこんなで俺と風華は既に昇降口前まで来ていた。

昇降口前には井深公彦先生が仁王立ちしていた。進路相談、生活指導担当の鬼という異名を持つ。

別名ラガーマン。一八〇を余裕に超える身長。ベンチプレスは二〇〇？も上げるといふ噂の太い腕。スーツがはち切れんばかりの胸筋。そして恐ろしい顔とソフトモヒカンの髪型。

恐ろしい。逆らうと男子には張り手、女子には怒声を上げる恐ろしい噂、というか事実がある。

実際タバコを吸っていた男子生徒を見つけた瞬間に往復ビンタをした。しかも力加減を考えており、鼓膜が破れないように永遠のビンタを男子生徒は一〇分間喰らったという。

「おはようございます、井深先生」

「うむ、おはよう伸二と崎本」

更に恐ろしいのは全学年の生徒の顔と名前を暗記しているところだ。制服を着ていなくとも顔で判断できる。

「お前達の分はこれだ」

井深先生は足元に置いてある箱から二通の茶色い封筒を俺達に渡した。

「実際俺は今でも信じられん。お前、風華がカンニングをしたって事に」

井深先生はヤレヤレと深いため息を吐く。

カンニング事件。三週間前の振り分け試験時、風華の机の中に一枚の数学の公式がビッシリと詰まった紙が発見された。風華はカンニ

ングを否定したが、物的証拠がでた以上、風華は一週間の謹慎処分と振り分け試験のテスト全て0点となった。

つまり、風華は実質Fクラス落ち。

「私はやってません、て言ってもあの先生方は信じませんでしたし」

「そうだな。崎本はもう少し愛想良くすれば先生方の印象が良くなるのだが」

井深先生は真剣な眼差しで風華を見据^{みず}える。

「しかし、俺は信じているぞ。お前がカンニングをしていなかったと」

風華は先生というものが嫌いで一部の先生以外には冷たくあしらう。

その事が原因なのか風華のカンニングが認められてしまった。

しかし、井深先生だけが最後まで粘ってカンニングペーパーの文字と風華の文字と違うだの、別室で試験をさせて点数が前と変わらなかったらカンニング疑惑を取り消そうと頑張ったが、結局カンニング犯扱いとなった。

「ありがとうございます。先生の事は感謝してます」

「そうか。だが、何もできなくて、本当にすまなかった」

俺は井深先生と風華のやり取りを見ながら俺が受け取った封筒を開く。中には一枚の紙が三つ折りになって入っていた。

「それにしても、伸二」

「なんですか？」

「お前の成績だったらCクラスは余裕だったろうに」

俺は折り畳まれた紙を開き、自分のクラスを確認する。

「……何故テストに名前を書き忘れるんだ」

『五月女伸二……Fクラス』
さおとめしんじ

「そりゃあ先生」

俺はニツとニヤけて見せる。

「仲の良い友達と一緒にのクラスになれるのなら、俺は地獄にでも出向きますよ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9905y/>

バカと不良と車椅子少女

2011年11月30日08時51分発行